

平成26年度 社会福祉振興助成事業 事後評価結果

| | |
|-------|---|
| 助成区分 | 福祉活動支援事業 |
| 助成テーマ | 生活困窮に陥った若者のステージに応じた多様な就労支援、自立生活の支援に関する事業 |
| 団体名 | 特定非営利活動法人せかい卵 |
| 事業名 | 困難を有する若者たちの自立支援事業 |
| 事業概要 | 生活保護受給者の増加という現状に対して、将来の被保護人員を減少させるために、困難を有する若者たち（発達障害・ひきこもり等）が日常生活・社会生活・経済的に自立することを目的に、生活保護に至る可能性のある若者で、自立が見込まれる若者を対象に、一人ひとりの状況・状態に合わせて自立（就労、中間的就労、体験、居場所づくりなどの社会参画を含む）の糸口を見出し、継続・定着するための支援を実施する事業。 |

【評価内容】

| 評価項目 | | 評価の視点 | ウェイト | スコア | S 非常に高く評価できる水準にあるもの | | A 高く評価できる水準にあるもの | | B 良好な水準にあるが、一部課題のあるもの | | C 一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの | | D 全般的に多くの課題のあるもの | |
|--------|----------|--|------|-----|------------------------|---|---------------------|---|--------------------------|---|---------------------------|---|---------------------|---|
| | | | | | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| プロセス評価 | 事業推進姿勢 | ・ 事業実施のための明確な理念 ・ 事業に取り組む意欲・積極性 | 1 | 10 | | | | | | | | | | |
| | 事業実施体制 | ・ 団体内部のガバナンス体制の確保等、実施体制、専門性 ・ 有効性、実効性ある外部資源の活用・連携 | 1 | 6 | | | | | | | | | | |
| | 事業実施プロセス | ・ 効果的、効率的、経済的な事業の実施 ・ 継続的な改善への結び付き | 1 | 7 | | | | | | | | | | |
| 成果評価 | アウトプット | ・ 計画どおりに実施され、予定した成果を生むものとなったか ・ 量的な指標の達成の程度 | 2 | 7 | | | | | | | | | | |
| | アウトカム | ・ 事業の利用者等のニーズを満たした価値ある成果だったか | 3 | 8 | | | | | | | | | | |
| | インパクト | ・ 事業成果が地域や社会に与えるインパクト ・ 事業成果の他地域への広がり | 2 | 7 | | | | | | | | | | |
| プロセス評価 | | | 3 | 7.7 | | | | | | | | | | |
| 成果評価 | | | 7 | 7.4 | | | | | | | | | | |

| 総合評価 | ウェイト | 総合スコア | S | A | B | C | D |
|------|------|-------|-------------------|----------------|---------------------|----------------------|----------------|
| | | | 非常に高く評価できる水準にあるもの | 高く評価できる水準にあるもの | 良好な水準にあるが、一部課題のあるもの | 一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの | 全般的に多くの課題のあるもの |
| 総合評価 | 10 | 75 | | | | | |

100 90 70 50 30 0

| | | 助 成 申 請 時 | 完 了 報 告 時 |
|-----|---------|-------------|-------------|
| 謝 金 | | 1,275,000 円 | 1,386,000 円 |
| 旅 費 | | 309,000 円 | 303,185 円 |
| 所 費 | | 934,600 円 | 995,991 円 |
| 収 入 | WAM助成金 | 2,493,000 円 | 2,493,000 円 |
| | 参 加 費 | 0 円 | 0 円 |
| | 一般会計繰入金 | 25,600 円 | 191,997 円 |
| | そ の 他 | 0 円 | 179 円 |

【総 合 所 見】

◆評価できる点

離島の地域性をふまえて、困難を抱えた若者に丁寧に寄り添い、工夫をこらした就労準備支援講座を実施するとともに、就労・職業体験の機会をつくっている。参加者のみならず、就労体験の協力団体にもきめ細かに対応されていた。大変意欲的であり、意義ある取り組みとなっていた。

◆課題と思われる点

代表者の力量に負うところが大きく、ガバナンス体制がやや見えにくい印象があった。

◆助言・その他（事業継続、資金調達、広報、連携・ネットワーク等）

事業の継続を考慮し、収益事業を始められるなど、将来を見据えた取り組みを実施されており、今後一層の事業の展開、充実が大いに期待される。なお、効果測定において「マイナス言語の出現率」で評価をされていたが、マイナス言語の表出は「ありのままの自分の気持ちや状態を表出できる」というポジティブな側面と受け止めることもできる。今後、より多面的な評価方法が検討できるとよいのではないかと考えられた。

【平成26年度助成実績の概要＆委員ヒアリング評価の内訳】

